

製品安全データシート

1【製品及び会社情報】

製品名：コスミックECO硬化促進剤(1/100)

推奨用途及び：塗料、業務用

使用上の制限

会社名：株式会社ダイフレックス

住所：東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル25F

電話番号：03-5381-0881

輸送時の緊急連絡先：コスミック事業部 03-5321-9761

2【危険有害性の要約】

GHS分類

物理化学的危険性：引火性液体：区分3
自己発火性液体：区分外

健康に対する有害性：急性経口毒性：区分5
急性経皮毒性：区分5
急性吸入毒性(蒸気)：分類できない
急性吸入毒性(粉塵・ミスト)：分類できない
皮膚腐食性/刺激性：区分2
眼に対する損傷製/目刺激性：区分2A
皮膚感作性：分類できない
呼吸器感作性：分類できない
生殖細胞変異原性：分類できない
発がん性：分類できない
生殖毒性：分類できない
特定標的臓器毒性(単回暴露)：分類できない
特定標的臓器毒性(反復暴露)：分類できない
吸引性呼吸器有害性：区分1

環境に対する有害性：急性水生毒性：区分外
慢性水生毒性：分類できない

ラベル要素

絵表示



注意喚起語：危険

危険有害性情報：H226 引火性液体および蒸気
H303 飲み込むと有害のおそれ(経口)
H304 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ
H313 皮膚に接触すると有害のおそれ(経皮)
H315 皮膚刺激
H319 重篤な眼への刺激性飲み込むと有害

注意書き

- 予防策**
- このMSDSの第8項で記載する保護手袋および保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)
 - 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。(P241)
 - 容器および受器を接地すること。(P240)
 - 取扱後は手をよく洗うこと。(P264)
 - 容器を密閉しておくこと。(P233)
 - 火災を発生しない工具を使用すること。(P242)
 - 熱／火花／裸火／高温のもの<のような着火源>から遠ざけること。－禁煙。(P210)
 - 静電気放電に対する予防措置を講ずること。(P243)
- 応急処置**
- 火災の場合**には、消火に(製造者／供給者または規制所管官庁が指定する適当な手段)..を使用すること。(P370+P378)
 - 気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)
 - 着衣に付着した場合**：汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362)
 - 皮膚(または毛)にかかった場合**：直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
 - 皮膚についた場合：多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+P352)
 - 皮膚刺激が生じた場合**、医師の診断／手当てを受けること。(P332+P313)
 - 眼に入った場合**：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。(P337+P313)
 - 飲み込んだ場合**：直ちに医師に連絡すること。(P301+P310)
吐かせないこと。(P331)
- 保管**
- 施錠して保管すること。(P405)
 - 涼しい所／換気の良い場所で保管すること。(P403+P235)
- 廃棄**
- 内容物／容器を(国際／国／都道府県／市町村の規則に従って) ...に廃棄すること。(P501)
施錠して保管すること。(P405)

3【組成及び成分情報】

- 単一製品・混合物の区別 : 混合物
- 化学名又は一般名 : ビス(2-モルホリノエチル)＝エーテル溶液
- 成分

化学名 または 一般名	濃度又は濃度範囲 (wt%)	CAS 番号	化審法 官報公示整理番号
アルカン (C=10-14)	50	93924-07-3	2-10
ビス(2-モルホリノエチル)＝エーテル	50	6425-39-4	5-6265

4【応急措置】

吸入した場合

- 新鮮な空気の所へ移し、安静にさせる。
吸入による症状が出た場合には医師の診察を受ける。
呼吸が弱かったり止まっている場合、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。

皮膚に付着した場合

- 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受ける。
汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。必要であれば切断する。
多量の水と石鹼で完全に洗い流す。
外観に変化がみられたり、痛みが続く場合は、直ちに医療処置を受ける手配をする。

目に入った場合

流水で15分以上洗眼し直ちに眼科医の診察を受ける。
洗眼の際、瞼を指でよく開いて、眼球、瞼の隅々まで水がよくいきわたるように洗浄する。
コンタクトレンズを使用している場合は、取除いて洗浄を続ける。

飲み込んだ場合

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡する。
無理に吐かせてはならない。

予想される急性症状及び遅発性症状

5【火災時の措置】

消火剤

火災の場合は霧状水 泡 粉末 炭酸ガス を使用する。

使ってはならない消火剤

データなし

特有の危険有害性

効きの悪い空調の下では、蒸気が蓄積し地面を這って着火源に到達し、引火してフラッシュバックする危険がある。不完全燃焼の場合は、一酸化炭素が発生する。水面に浮くため、再着火の危険性がある。

特有の消火方法

大量の消火水によって野生生物に毒性の流出液を生じさせ又は危険な廃棄物処理の問題が起きる可能性がある。水は大規模火災の場合には効果的でないことがある。
消火作業は、離れた風上から行う。

消火を行う者の保護

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6【漏出時の措置】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏洩現場から関係者以外のものを非難させ、立ち入りを禁止する。着火源を取り除く。管理者に連絡する。保護具を着用する。

呼吸器用保護具(例 空気呼吸器;JIS T 8155、送気式マスク;JIS T 8153)不浸透性の保護衣・保護手袋及び長靴・保護眼鏡

環境に対する注意事項

出来れば、溝や土手を作って、こぼれた液を堰きとめ、漏出の拡大を防ぐ。こぼれた液や洗浄水を、下水溝、井戸や地表水へ流出、または地下水へ浸透させない。

回収、中和

液は金属容器に封じ込めてポンプで回収する。

少量または表面に拡がった漏出液は、不燃性の吸収材(例 砂、土、珪藻土、パーミキュライト)を覆いかぶせて吸収させ、蓋の開いた廃棄用金属容器に回収する。

封じ込め及び浄化方法・機材

危険なくできるときは漏洩部をふさぐ。漏洩源の制御に努める。換気をする。排水口、下水、配水施設、地面に拡がって流入しないように防止する。すべての低い場所にある空間をふさぐ。大量に漏出して漏出物が溜まっている場合は、金属容器に封じ込めてポンプで回収する。蓋で密閉はしないこと。少量または表面に拡がった漏出液は、不燃性の吸収材(例 砂、土、珪藻土、パーミキュライト)を覆いかぶせて吸収させ、廃棄用金属容器に回収する。

二次災害の防止策

漏出物を回収する。

付近の裸火、熱、スパークなどの着火源を速やかに取り除く。作業に際しては、火花を発生しない安全な工具・ポンプを使用する。

静電気放電に対する予防措置を講ずる。

7【取扱い及び保管上の注意】

取扱い

技術的対策

取扱者の暴露防止

取扱中は禁煙。
蒸気を吸入してはならない。

火災・爆発の防止

容器には、空になった後も蒸気が残っている。空又は空に近い容器を切断、穴あけ、溶接などの処置をしてはならない。

静電気に対する予防措置を講ずる。

取扱い中及び蒸気(臭気)がなくなるまでの間、パイロットバーナー、電気の着火源(スパーク及びニクロム線)その他のすべての着火源を除く。

局所排気・全体換気

換気のよい場所でのみ取り扱う。

注意事項

加熱してはならない。

安全取扱い注意事項

取扱う前にすべての安全注意を読み理解する。

必要な個人用保護具を使用する。

接触回避：使用しない時は、密閉しておく。

天然ゴム、ブチルゴム または ニトリルゴムとの長時間の接触は避ける。

保管

保管条件

技術的対策

施錠して保管する。
容器を密閉して保管する。
容器を乾燥した状態で保管する。
容器を換気のよい場所に保管する。

避けるべき保管条件

直射日光が当たる場所。
屋根がない場所。
開封状態での保管。
高温になる場所、およびその隣接した場所。

混触禁止物質

消防法で定める混載禁止物質との同一保管は禁止。

安全な容器包装材料

軟鋼、ステンレス鋼

8【暴露防止及び保護措置】

管理濃度

非該当

許容濃度

本製品についての許容濃度は定められていないが、次の製品の許容濃度を適用することを推奨する。
RCP Dearom Mineral spirits 150-200: TWA(8時間) 1200 mg/m³

設備対策

労働衛生法上の規制に従って、可能な場合には、換気設備などの施設上の技術的な対策を講じて作業者を保護しなければならない。

保護具

呼吸器の保護具

施設上の技術的な対策では完全に達成できない場合は、空気呼吸器などの個人保護具の装着を義務付けなければならない。

呼吸器用保護具(例 空気呼吸器;JIS T 8155、送気式マスク;JIS T 8153)

手の保護具

保護手袋を着用する。

不浸透性の保護衣・保護手袋及び長靴

着用すべき手袋の材質：不浸透性の耐油性手袋(アクリロニトリル系)

短時間の保護にはPVC、ブチルゴム、ネオプレンが使用可能

目の保護具

耐薬品性のゴーグルとフェイス・シールドの着用。眼の保護用の例として、耐薬品性ゴーグル、また飛散の危険性が高い場合は顔面全体を覆うフェイス・シールドと耐薬品性ゴーグルの併用。コンタクトレンズの装着は禁止。

皮膚及び身体の保護具

カバーオールや実験衣のような保護衣を着用する。汚れた時は、洗濯するかドライクリーニングをする。

手袋は耐薬品性・耐油性のものを使用する。多量を取り扱う場合は、不浸透性の防護衣、安全帽、保護長靴、保護前掛けを着用する。

適切な衛生対策

この製品を使用するときは、飲食または喫煙をしてはならない。

取扱後はよく洗う。

汚染した衣類を再使用する場合は洗濯する。

9【物理的及び化学的性質】

外観(物理的性状・色)	: 淡黄色液体
臭い	: 炭化水素臭とアミン臭
粘度	: データなし
pH	: データなし
融点・凝固点	: データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	: 157-213°C(アルカン)
引火点	: 43°C(アルカン)
爆発範囲の上限・下限	: 0.6-6v%(アルカン)
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
比重(相対密度)	: 0.87 @23°C
溶解度	: (ビス(2-モルホリノエチル)エーテル) 水に溶解 (アルカン(C=10-14)) 水に不溶
n-オクタノール/水分配係数	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし

10【安定性及び反応性】**安定性**

通常の使用では安定である。

危険有害反応可能性

危険な分解や重合は生じない。酸と激しく反応する。

避けるべき条件

加熱・燃焼・混色危険物質との接触、意図しないイソシアネート類との接触

静電放電

着火源との接触

混触危険物質

強酸および酸化剤

危険有害な分解生成物

火災および高温で：青酸ガス(シアン化水素)、二酸化炭素、一酸化炭素、酸化窒素類、アミン類、その他の未確認の成分

11【有害性情報】

物理的、化学的及び毒性学的特性に関係した症状

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性： データなし

皮膚感作性： データなし

生殖細胞変異原性

アルカン(C=10-14)： データなし

ビス(2-モルホリノエチル)＝エーテル： Ames Test 陽性

発がん性

アルカン(C=10-14)： 実験動物について反復暴露によって皮膚腫瘍が促進される。

ビス(2-モルホリノエチル)＝エーテル： データなし

急性毒性

経口毒性

アルカン(C=10-14) 類似物質： ラット LD50 >2000 mg/kg

ビス(2-モルホリノエチル)＝エーテル： 区分外 ラット LD50 2025mg/kg

吸入毒性(蒸気、密度)

アルカン(C=10-14)： 低毒性 LC50(ラット)は飽和蒸気濃度より大きい。

ビス(2-モルホリノエチル)＝エーテル データなし

経皮毒性

アルカン(C=10-14)類似物質： ラット LD50 >2000 mg/kg

ビス(2-モルホリノエチル)＝エーテル： 区分外 ウサギ LD50 3038mg/kg

皮膚腐食性・刺激性

アルカン(C=10-14)：軽度の皮膚刺激を起こすおそれがある。反復暴露によって皮膚炎つながる脱脂を起こすおそれがある。GHS分類にはデータ不足。

ビス(2-モルホリノエチル)＝エーテル： Severe irritation

眼に対する重篤な損傷・刺激性

アルカン(C=10-14)：データなし

ビス(2-モルホリノエチル)＝エーテル： Severe irritation

生殖毒性

データなし

特定標的臓器・全身毒性－単回暴露

データなし

特定標的臓器・全身毒性－反復暴露

アルカン(C=10-14)： データなし

ビス(2-モルホリノエチル)＝エーテル： 雌雄ラット 28日間反復投与： 流涎 (NOEL=8mg/kg/day)

吸収性呼吸器有害性

アルカン(C=10-14)： 40℃で測定した動粘性率が^g20.5mm²/s 以下と推定される炭化水素。区分1

12【環境影響情報】

生態毒性

水生急性毒性：

アルカン (C=10-14)：魚(LC50)、水性無脊椎動物(EC50)および藻類(IC50) >1000mg/l

ビス(2-モルホリノエチル)エーテル：魚類(Brachydanio rerio) 96時間 LC50>2,150mg/l

水生慢性毒性(DETDA)：データなし

残留性・分解性

アルカン (C=10-14)：易分解性

生態蓄積性

アルカン (C=10-14)：蓄積の可能性あり。

土壤中の移動性

アルカン (C=10-14)：低移動性

13【廃棄上の注意】

残余廃棄物の廃棄

環境への放出を避ける。

残余廃棄物の廃棄は、関係法令、地方自治体の規制等に従って行う。焼却が好ましい方法である。

製品の処分は産業廃棄物処理専門業者に成分を明示して契約を締結すること。

汚染容器及び包装の廃棄方法

空容器は製品の残滓が入っているので、製品についての注意事項に従う。毒性の蒸気やガスが発生するので、容器を電気又はガスによる加熱や溶断してはならない。空容器は、業者による洗滌と修理をしないで再利用してはならない。容器を廃棄する場合は、廃棄前に製品の残滓が全て除去されていることを確認する。

14【輸送上の注意】

国連番号	: 3 2 9 5
指針番号	: 1 2 8
品名(国連輸送名)	: HYDROCARBONS, LIQUID, N.O.S. (炭化水素類、液体、n.o.s.)
国連分類	: クラス3
容器等級	: III
海洋汚染物質	: 有害液体物質 2類 (混合物)
安全対策	: 容器の破損、内容物の漏れがないことを確かめ、転倒、落下、破損の無いように積み込み、荷崩れを防止すること。
陸上輸送	: 消防法、労働安全衛生法の輸送について定めるところに従う。
海上輸送	: 船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送	: 航空法に定めるところに従う。

15【適用法令】

労働安全衛生法

法第57条の2、施行令第18条の2別表第9名称等を通知すべき有害物： 非該当

化学物質管理促進法

法第2条第3項、施行令別表第1： 特定第1種指定化学物質： 非該当

消防法

法第2条危険物別表第4類引火性液体： 第2石油類(非水溶性)

船舶安全法

引火性液体類（危規則第3条危険物告示別表第1） 非該当（混合物）

海洋汚染防止法

施行令別表第1 有害液体物質 Z類 混合物

特定有害廃棄物輸出入規制法（バーゼル法）（廃棄する場合）

廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの（平10三省告示1号）廃棄物、1重量%以上含有

16【その他の情報】

参考文献

2008 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

「化学物質等法規制便覧改訂第4版」(2004)化学物質等法規制便覧編集委員会編

原料メーカーのMSDS

記載内容の問合せ先

株式会社ダイフレックス 技術グループ

TEL:047-436-0811 FAX:047-436-0815

本データシート記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成して入りますが、化学品の含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

また注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

以上
